

# With

利用者と共に

職員と共に

地域と共に

vol.37



2017.6/1

TAKAMORI

発行所 障害者支援施設 高森荘

〒399-3101 長野県下伊那郡高森町山吹4473-1

TEL.0265-35-6811 FAX.0265-35-6812

E-mail: t356811@takamori.ne.jp

発行者 高森荘施設長 入野友宏

高森荘からの情報発信 ウィズ



ある日の高森荘

## 普通救命講習

2月4日・5日・11日の3回、職責を問わずグループに分かれ、飯田広域消防高森消防署から救急救命士の方を講師にお招きし、普通救命講習を受講致しました。有事の際、救助を行うには日頃の訓練が必要となります。

講習内容は、心肺蘇生、AED使用方法、気道の異物除去方法を学ぶ事が出来ました。DVDを見ながらの座学と、人形を使いAEDを使用しながら心臓マッサージを行い、不測の事態に備え、職員全員で再確認する事が出来ました。





個別支援計画(ケアプラン)と  
栄養ケア計画の充実

・体系移行後、確立されてきた障害者支援施設(生活介護(生産活動))のサービス内容に対応し、利用者の「個別支援計画」と「栄養ケア計画」を全面的に見直した。計画は、相談支援事業所高森荘の計画相談を含め「サービス等利用計画(総合的援助方針)」と整合性が図られているか検証した。授産施設時代は福祉的就労の場として「働きたい」を優先し、工賃は自立支援に繋がるため収益upが至上命題であった。制度改正に伴う脱施設化や地域生活移行の潮流の中で、当事業所が選択した「障害者支援施設」はサービス提供の最終手段とされた。優先すべきは直接生命を脅かすニーズに対する支援であり、支援目標は疾病や障害などが重視される。計画の見直しでは希望している施設の機能は「変し」「健康で暮らすこと」が最優先と説明し理解を求めた。この変化は、授産時代から長期に利

用する、特に障害支援区分の低い方にとっては理解しがたい内容であった。一生懸命働いて外出し買物や好きなものを食べていた方にとっては閉塞感が生じた。ケア会議ではニーズとそれに基づく支援内容をご本人と確認しあつた。アセスメントの段階では理解しても当日は抵抗感を抱く方もおられ、なぜ必要なのかを何度も説明することが多かつた。こうした取り組みは結果として定期健康診断の結果値に現れ改善傾向が見られた。そのことは入院及び通院や服薬量の減少に繋がっている。

「終の棲家」ではないことについての説明と同意

・障害者支援施設(生活介護)の本来機能は「終の棲家」である。そのため介護保険の適用除外施設であり希望し認められれば終生利用することができる。体系移行後、本来の機能に相応しいサービス事業所

を目指し、医療職の増員、夜勤変更、医行為の知識や手技の向上、喀痰吸引等実施のための研修(第3号)に取り組んできた。しかし、ハード面で見ると、居室面積を含め介護施設には不向きであり浴室やトイレにも限界がある。ソフト面では、医療的なサービスを望む方が多いが診療科目が広範囲で複数受診も多い。加えて、お金を稼ぎたい、働きたい、楽しいことがしたい、松川事業所が良いといった多様なニーズがあり、それらに対するマンパワーと力量について限界を感じる。これらを鑑み、看取りを含む「終の棲家」を実現するのは現実的ではないと結論付けた。その一環として「事前指

示書」を事業所版として作成し延命に対する考えを明確にした。医療機関の様式をベースにしているが、夜間等救急搬送時での判断の参考と、福祉施設の医療サービスとの限界、医療処置の結果によって再利用が困難な場合があるなどを明示した。この件についてはご家族にも周知する。「終の棲家」ではないこと自体の周知については、ケア会議、自治会総会、保護者会等を活用しご理解を頂いた。

非常災害対策避難訓練

3月下旬、水害を想定した避難訓練が行われました。高森荘は、天竜川に隣接した施設であり、ハザードマップでも危険な場所に指定されています。そのため

以上で避難までに時間がかかる事が分かりました。反省も多く、まだまだ改善点も多くあります。万が一に備える為、これからも訓練を重ね、より良い避難の方法を模索していく予定です。

平成28年度 苦情解決の結果	
①職員の接遇に関するもの	0件
②サービスの質・量に関するもの	4件
③事故、被害、損害に関するもの	0件
④事業所運営等に関するもの	0件
⑤契約内容に関するもの	0件
⑥事業所の建物の構造に関するもの	1件
⑦利用者のトラブルに関するもの	1件
⑧その他( )	0件
合計	6件

「隣接した河川が氾濫した際、利用者の方の皆さんをどうしたら安全かつ迅速に避難できるのか」を想定した訓練はとても重要となつてきます。初めて行われた今回の訓練。想像





# 転倒・転落委員会 ～安全な生活の為に～

高森荘では、利用者の高齢化・進行性疾患からくる症状に伴い、転倒・転落のリスクが施設全体として高まっています。利用者さんには個別性があり、防止策は非常に難しいものですが、転倒・転落防止委員会では個々のリスクを知り、転倒・転落を未然に防ぎ、利用者さんが施設で安全に生活できることを目的としています。

まず、個々のリスクを知るために毎年1回、または何か変化があった時にアセスメントシートを作り、利用者さん1人1人の危険度を分かり易くしています。5月10日には職員間で研修会を開き、アセスメントシートの作成や、それを転倒・転落防止にどう役立てていくか、また転倒・転落発生時の対応などを確認しました。

万が一転倒・転落が発生した場合、その日のうちにみんなで話し合い対応策を考えて予防をしています。中々無くならないのが現状です。

みなさんも注意していても躓いたりしてしまうことってありますよね？気を付けていても躓いてしまうのが人間で

す。高森荘ではそれが転倒に直結してしまうのです。とても難しい事ですが、それでも私たちは利用者さんの転倒・転落ゼロを目指して支援を続けていきたいと考えています。

## OJT研修の取り組み

生活支援係長

OJT担当 北澤貴幸

過去に研修を行っても行き当たりばったりで長続きしない、業務に活かされない、全員が周知できているのか不透明等々課題ばかりでした。そこで研修体制を一から見

## 忘年会

毎年恒例となっている忘年会が行われました。メインとして利用者さんと一緒に楽しめる様、○×クイズ、じゃんけんゲームを行いました。また利用者さんのカラオケ、職員による出し物も行いました。

○×クイズでは景品を用意し各チームで競い合いました。利用者さんも一生懸命考えていて、頭の体操にもなり、利用

直しOJT担当者としては左記の方針を掲げ、さらに「OJT記録シート」という書式をスタートしました。

●研修体制の流れを確立する事で各職員が研修担当者又は伝達者として主体的に研修に関わりを持つ事ができる。

●記録シートはその時の「過性の研修記録のみならず、業務内容のマニアル的な役割、知識、技術の蓄積・共有、実績記録等の多様な役割を果たすものとなるようにしたい。

●研修内容を伝達する人される人を明確にする事で確実に研修内容を各職員へ伝達する事が出来るようになる。また直接説明、対話する事

で業務の改善、検討するきっかけとなるようにしたい。

このような方針を踏まえ4月から3件のOJTを実施する事ができました。今後は実績を積み重ね研修内容を更に充実していきたいと考えています。

## 生産活動

今まで、製函と段ボールの組子中心の生産活動でしたが、新たに2つの作業が仲間入りしています。

一つは利用者さんの洗濯をお願いしている(株)ナピック様からタオル折りの仕事をいただくようになりました。

比較的、取り組みやすく何

人もの利用者さんに挑戦してもらおうことができました。

もう一つは、以前取引のあった(株)シンテック様から声をかけていただき、グリス付の作業を行うようになりました。久しぶりに、片麻痺の利用者さんにも弱電関係の仕事をやってもらえると思ったのですが、細かい作業のため職員も協力して取り組んでいます。

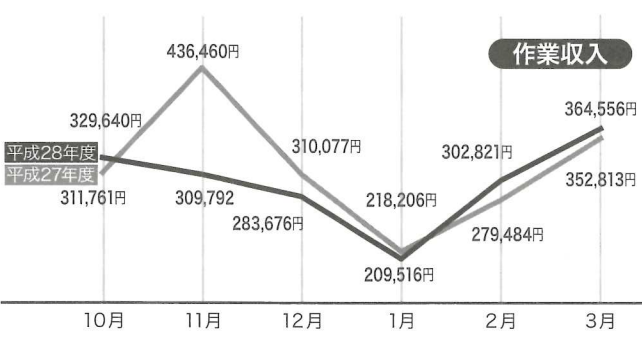
これからも利用者さんそれぞれの障がい状況に対応できるように作業の中を広げていく努力が大切だと思います。

者さんの笑顔を見る事が出来る、一緒に楽しめました。

カラオケでは、皆さん楽しく歌う事が出来ました。また、恒例の職員による出し物は各職員、利用者さんの、楽しんでる笑顔を見るため、練習しました。一番笑ってくれたのではないのでしょうか！

忘年会に相応しい豪華な食事もあり、一年を締めくくると良い思い出です。

溢れ、温かい気持ちになれる忘年会になりました。来年も、再来年も利用者さんたちの笑顔が沢山見れる忘年会が開催できると良いと思います。





# 2016年12月～2017年5月行事

紙面の写真・氏名については、利用者、ご家族、職員の同意を得て掲載しております。



忘年会



おやす作り



節分・交流会



双葉会交流会



篠笛&ピアノレクリエーション

**12/7 一日園長**  
上平地区長 中平雅之 様

**12/14 忘年会**



一日園長

**12/27 おやす作り**  
竜口老人クラブ 7名

**2/1 節分・交流会**  
上平老人クラブ 6名

**2/4 普通救命講習(3回)**

**2/5**

**2/11**



わらべ唄レクリエーション

**山吹ふれあい広場 3/3**

参加人数 15名

**3/29 非常災害避難訓練 双葉会交流会**



山吹ふれあい広場

## フレッシュ☆アイ ～ 職員の声 ～

私は、小さい頃から料理が好きで料理に携わる仕事をしたいと思い高森荘にきました。高森荘で働き始めて一ヶ月が経ちました。初日はとても緊張し、何もわからず働くことができませんでした。しかし、今では少しずつではありますが仕事にも慣れて動けるようになってきました。

様々な食形態があり、臨機応変に対応しなければいけない場面があること、美味しいご飯を提供するにはどうするかなど実際に現場に入り、やってみなければわからない事があり、とても勉強になっています。

利用者さんの「いただきました」の声や「美味しかったです」といった声が聴けるように日々成長していきたいです。そして、まだまだ覚えること、やるべきことがたくさんあると思いますが一つずつゆっくり確実にできるように頑張りたいと思っています。

高森荘にきて思ったことは、利用者さんはとても明るく、元気だということです。挨拶をすると元気に挨拶が返ってくるので毎回元気をもらっています。利用者さんが元気なので、職員も自然と元気になれるのだと思っています。しかし、利用者さんから元気をもらうばかりでなく、届けることができればうれしいので美味しいご飯を作って笑顔になってもらえるように頑張りたいです。

## 編集後記

だんだんと初夏の雰囲気を感じられるようになりました。草木の葉や茎が二斉に伸び花を咲かせとても気持ちのよい季節です。

高森荘では四月下旬からこの花の咲く時期を楽しんでもらおうとドライブレクに出かけています。利用者さんがうれしそうに出かけて行く姿、帰ってきた時の笑顔を見ると私までうれしくなります。

これから本格的な夏を迎えますが健康には十分留意し元気に過ごしたいと思います。